



狐塚古墳現地説明会資料

静岡県浜松市北区細江町



2011年4月17日

浜松市文化財課

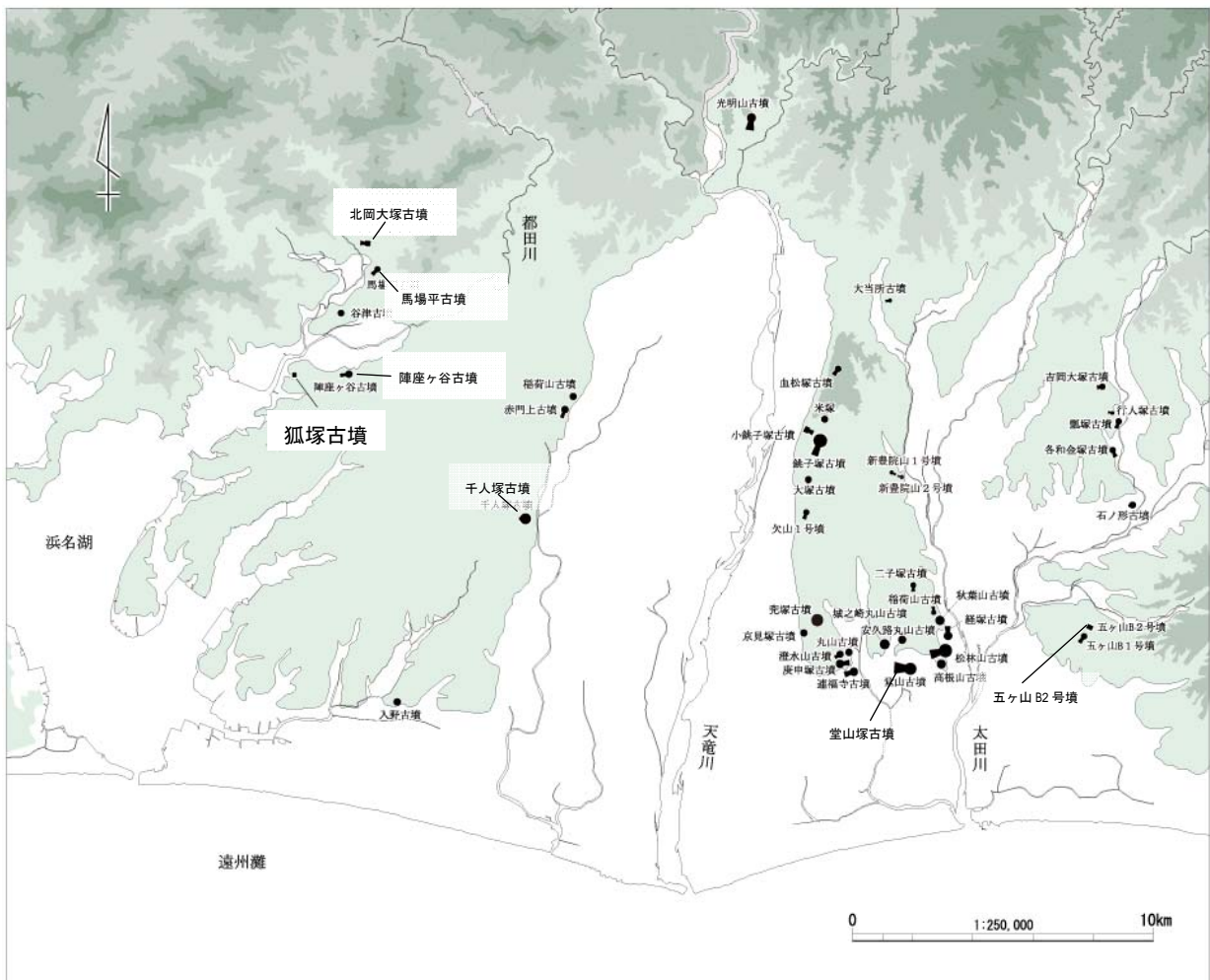
狐塚古墳について

経緯 浜松市北区細江町にある狐塚古墳は、半世紀ほど前に埋葬施設の一部が掘り出され、鉄製短甲（よろい）や鉄鍬（やじり）などが出土しました。その後、埋葬施設を含む古墳の大部分は土取りによって消滅しましたが、幸いにも古墳全体の4分の1ほどが残されていました。

この度、開発事業に伴い残存している墳丘部分を対象にした本格的な発掘調査を実施し、今まで不明瞭であった古墳の詳細が明らかになりました。



狐塚古墳の遠景（の下が古墳）



狐塚古墳の位置と周辺の古墳分布

狐塚古墳は浜名湖北岸の都田川流域に立地します。周囲には前期古墳の北岡大塚古墳、馬場平古墳、中期古墳の陣座ヶ谷古墳など中規模の前方後円（方）墳が認められます。

古墳の特徴

発掘調査 狐塚古墳の発掘調査は2011年1月から3月にかけて実施しました。その結果、古墳は5世紀中葉（約1600年前）に築かれた一辺22mの二段築成の方墳で、葺石と埴輪をそなえることが判明しました。

古墳の詳細 古墳の表面には拳大から人頭大の石を敷き並べた葺石が上段、下段ともに認められました。とくに上段は残存状態が良好で、調査部分のほぼ全面において葺石が確認できています。下段葺石についても、墳丘北側が後世の開発によって失われているものの、北西部、東南部においては基底部分を確認することができました。葺石は川原石を使用し、やや大振りの石を基底石もしくは区画帯として並べた後、その間を小振りの石で充填している工法が観察できます。

上段と下段の斜面の間には幅1.8mほどの平坦面が巡っており、ここに立ち並べていた円筒埴輪列を検出しました。円筒埴輪は築造当初の位置をとどめるものが多く（総数14点分の原位置を確認）、埴輪を樹立した技法が明確になりました。

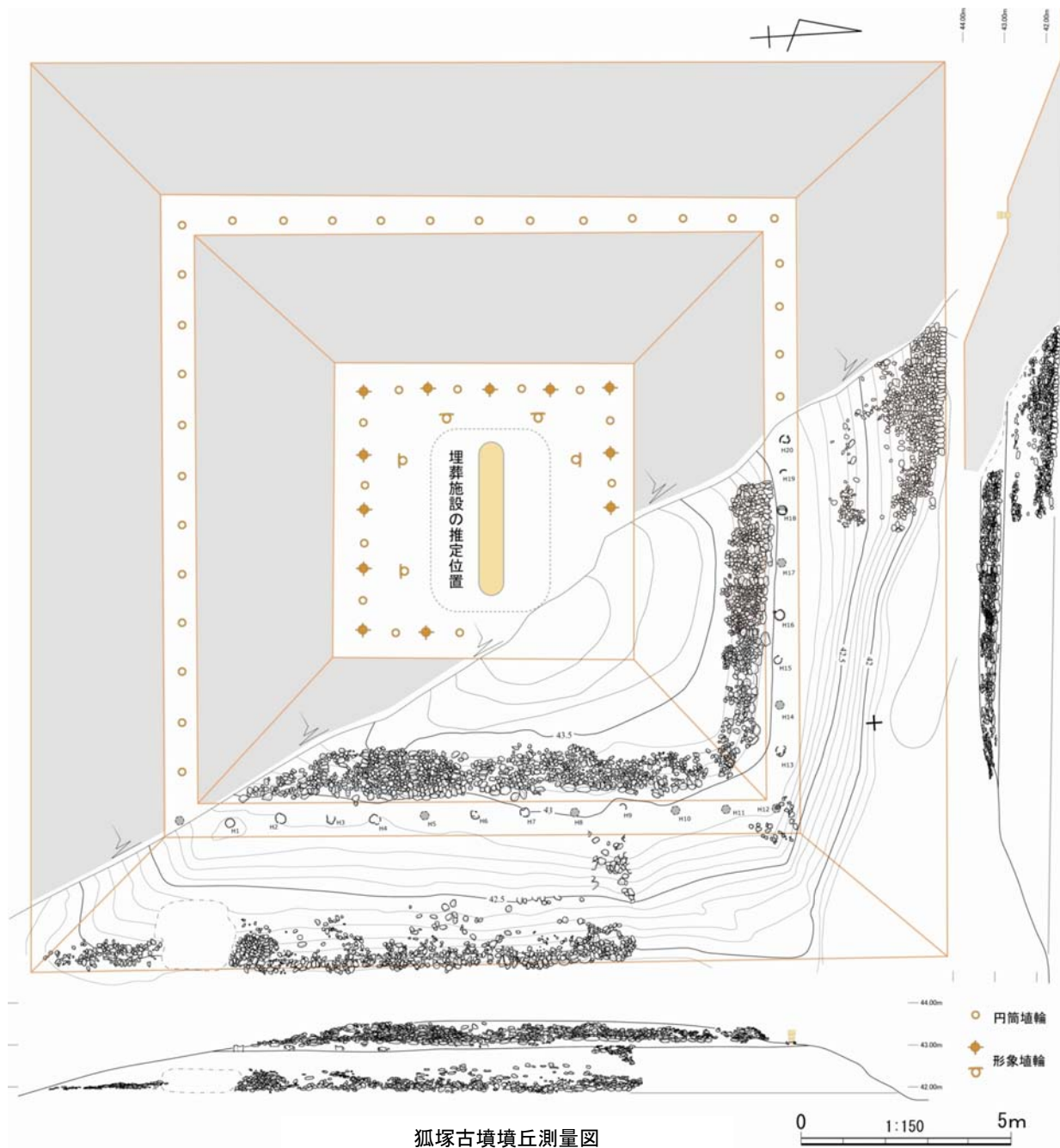
さらに、墳丘断面の観察を行い、下段墳丘は山を削り出して成形し、上段墳丘は盛土によって形づくられていることも判明しています。なお、周溝（古墳の周りの堀）は北側に巡っていたことが確実ですが、後世の破壊が顕著で、その詳細は確認できていません。



葺石の詳細



狐塚古墳の外形



東側平坦面埴輪列検出状況



円筒埴輪樹立状況

副葬品について

鉄製のよろい かつて埋葬施設から出土した副葬品として、長方板革綴短甲（ちょうほうばんかわとじたんこう、鉄のよろい）が知られています。長方板革綴短甲は、今回の調査に合わせて詳細を再検討し、その特徴が明らかになりました。短甲は体の上半部を覆う防具で、鉄板を革紐で綴じて作られています。近畿地方にあったヤマト王権から直接的に配布されたものとみられ、狐塚古墳の被葬者が当時の王権と密接な関係をもっていたことを物語ります。同じような短甲は静岡県内では 10 数例発見されていますが（表 1 参照）、いずれも豊富な副葬品をもつ有力古墳からの出土例であり、限られた人物しか入手できなかったことが分かります。

その他副葬品 その他の副葬品としては、砥石や、鉄鏃（やじり）、刀剣などがみられます。これらの副葬品も、狐塚古墳の築造時期や被葬者の性格を探る上で重要な資料です。



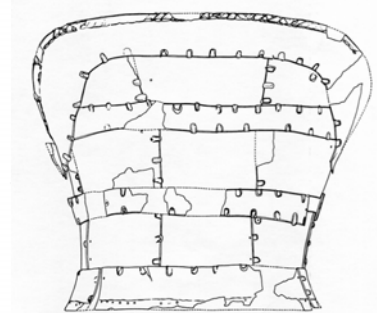
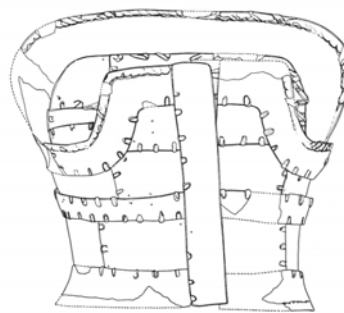
鉄鏃

表1 静岡県古墳時代中期鉄製甲冑出土古墳一覧表

古墳名	墳形	規模(m)	埴輪	甲	冑	頭甲	肩甲	付属具	類型
掛川市 各和金塚	前方後円墳	62	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○		A
袋井市 五ヶ山B2号	方墳	33×28	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	○	○	草摺?	A
浜松市 千人塚	円墳	49	○	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑	△	△		(A/B)
磐田市 安久路2号	円墳	26	無	長方板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑				B
静岡市 南沼上3号	円墳	16	無	三角板革綴短甲	三角板革綴衝角付冑				(B)
磐田市 安久路3号	円墳	27	○	長方板革綴短甲			△	小札	(C)
袋井市 石ノ形	円墳	27	○	横剗板鋳留短甲					D
森町 文殊堂11号	円墳	18	無	三角板革綴短甲					D
森町 林2号	円墳	16	無	三角板鋳留短甲					D
伊豆の国市 多田大塚2号	円墳	16	無	横剗板鋳留短甲					D
浜松市 狐塚	方墳	22	○	長方板革綴短甲					(D)
伊豆の国市 多田大塚4号	円墳	20	無	横剗板鋳留短甲					(D)
磐田市 土器塚	円墳	36	無	長方板革綴短甲					-
袋井市 (伝) 幕ヶ谷	不明	不明	不明	革綴短甲					-

○:存在する △:存在する可能性がある パーレンで囲ったものは、類型が不確定な事例

類型:A:甲+冑+付属具 B:甲+冑 C:甲+付属具 D:甲のみ



長方板革綴短甲

左の写真は狐塚古墳出土資料、上の図面は大阪府豊中大塚古墳出土資料。全国の有力な古墳から同形態の短甲が出土しています。

埴輪について

埴輪の種類 今回の調査によって数多くの埴輪が出土しています。出土した埴輪には、円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪が確認できます。いずれも古墳の表面に立ち並べていたもので、形象埴輪には、蓋（きぬがさ）、家、鞞（ゆぎ、矢入れ具）、盾、甲冑などの各種が認められます。

円筒埴輪の詳細 円筒埴輪は墳丘の中段にある平坦面と墳頂の平坦面に立ち並べられていました。墳頂平坦面では原位置をとどめる埴輪はみられませんでした。中段平坦面では一定間隔に円筒埴輪が立ち並べられている様子が観察できました。円筒埴輪は、突帯を2条めぐらした3段構成とみられ、中段には円形の透かし穴がみられます。埴輪には明確な黒斑（焼きムラ）が認められないことから、専用の窯を用いて焼成された（窖窯焼成）とみられます。円筒埴輪の表面には、特徴的な調整技法（B種横ハケ）がみられることも注目できます。

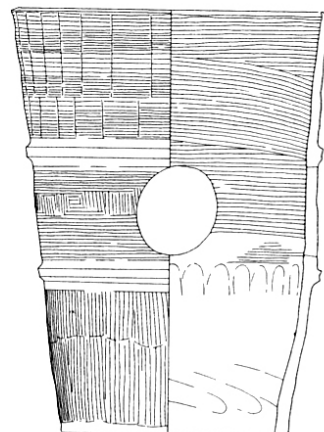
形象埴輪の詳細 形象埴輪は種類が豊富です。形象埴輪は原位置をとどめて出土するものが認められませんでした。墳丘上半部から出土することが多く、墳頂平坦面に樹立されていたことが分かります。狐塚古墳の形象埴輪は、蓋（きぬがさ）形埴輪が多い点の特徴です。蓋とは貴人に差しかける傘のことで、古墳被葬者の身分の高さを物語ります。

埴輪の時期 円筒埴輪に認められる諸特徴から、狐塚古墳の埴輪は窖窯焼成の導入時期（古墳時代中期中葉、5世紀中葉）の所産と捉えられます。

狐塚古墳の埴輪は浜名湖北岸地域では最も古い特徴を有しています。埴輪の製作にあたっては、ヤマト王権からの技術指導があった可能性があります。



円筒埴輪基底部



2条3段構成の円筒埴輪

(磐田市血松塚古墳出土品)



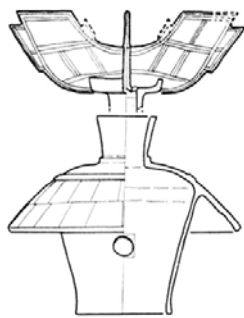
各種の形象埴輪

形象埴輪の全体形

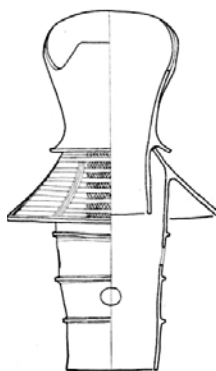
(各地出土資料)



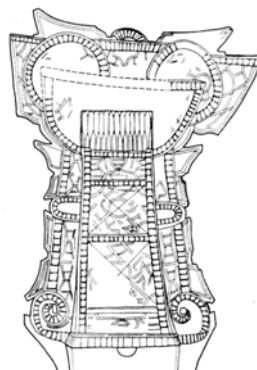
家



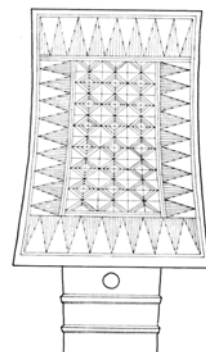
蓋（きぬがさ）



甲冑



鞞（ゆぎ、矢入れ具）



盾

狐塚古墳の被葬者について

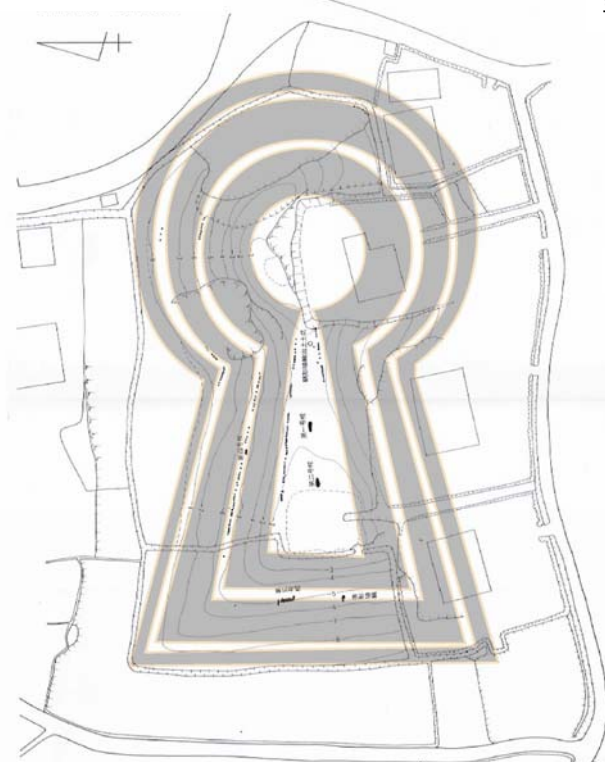
古墳の築造時期

出土した埴輪の特徴から判断すると、狐塚古墳は5世紀中葉（古墳時代中期中葉、約1600年前）に築造されたと考えられます。この年代観は、以前に採集されている副葬品（長方板革綴短甲、鉄鏃など）の編年の位置とも整合的です。

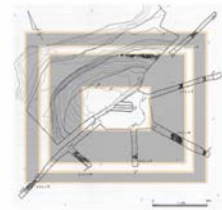
古墳の被葬者像

狐塚古墳は方墳というやや特異な形態をしています。方墳としては浜松市内では最大で、静岡県内でも屈指の大きさ（表2参照）を誇ります。狐塚古墳と同じ、古墳時代中期の事例を参考にすると、方墳には大型前方後円墳の被葬者を補佐するような官僚的役割を担った被葬者の性格がうかがえる場合があります。狐塚古墳に葬られた人物にも、通常地域の有力者とは異なる武官的な立場から、浜名湖北岸域の水上・陸上交通の管理を担う被葬者像が浮かび上がります。

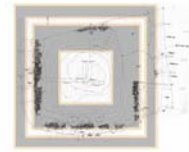
堂山古墳 全長 110m



五ヶ山B2号墳 33×28m



堂山3号墳 一辺 24m



狐塚古墳 一辺 22m

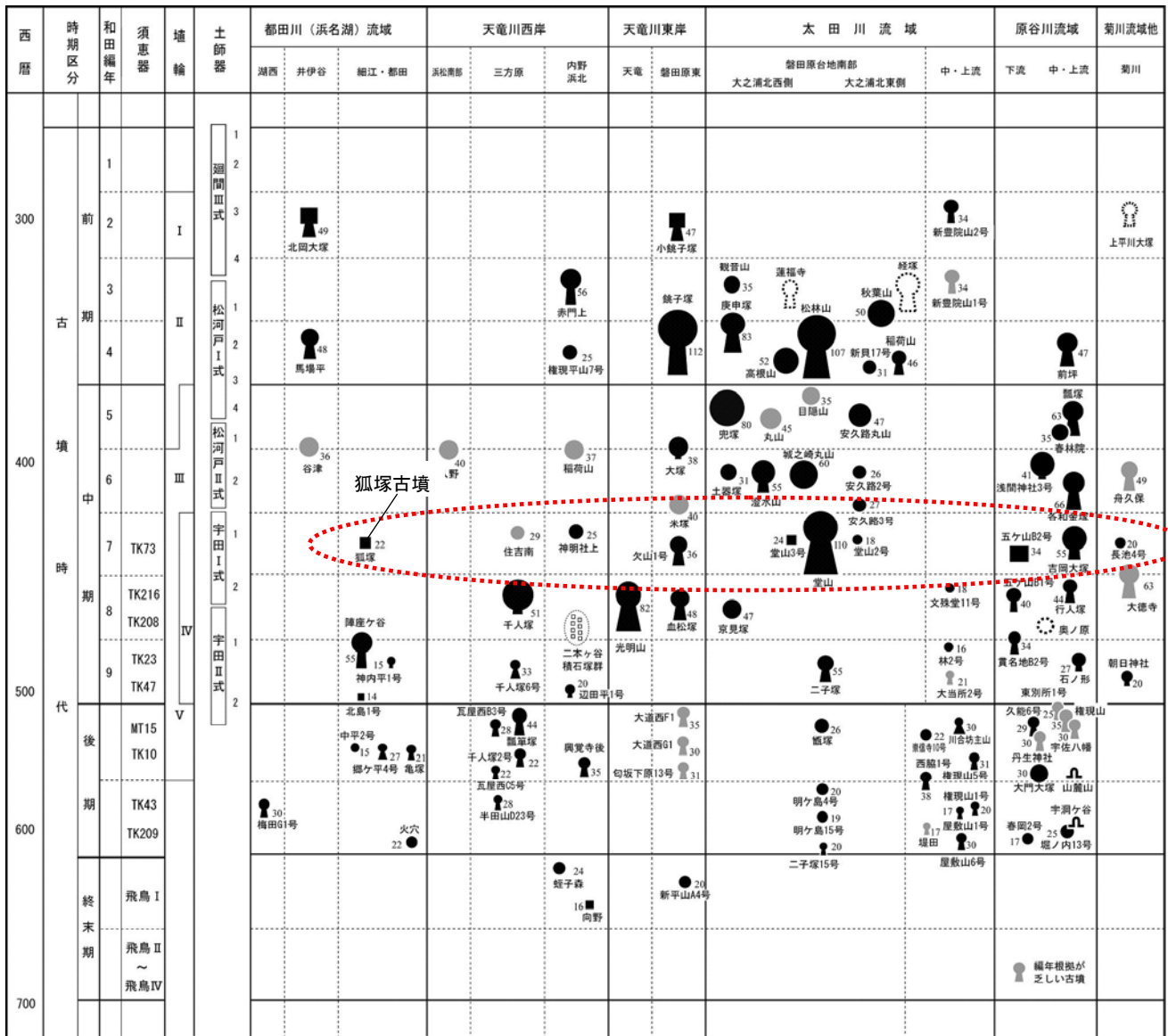


0 20m

大型前方後円墳と方墳の墳丘比較

表2 静岡県内主要方墳一覧

古墳名	墳形	規模 (一辺m)	葺石	埴輪	段築	埋葬施設	副葬品など	時期
袋井市 五ヶ山B2号	方墳	33×28	○	○	二段	木棺直葬	甲冑、革盾、刀剣、鉄鏃、農工具	中期中葉(古)
静岡市 佐渡山2号	方墳	28×27	×	×	なし	横穴式石室	須恵器、銅鏡	後期後半
静岡市 小鹿山神	方墳	25	×	×	なし	横穴式石室か	須恵器、大刀、馬具、玉	終末期前半
磐田市 堂山3号	方墳	24	○	○	二段	(不明)		中期中葉(古)
浜松市 狐塚	方墳	22	○	○	二段	木棺直葬か	短甲、鉄族、刀剣	中期中葉(古)
静岡市 上ノ山7号	方墳	22×21	×	×	なし	横穴式石室	大刀、玉	後期後半
磐田市 大手内6号	方墳	19	×	×	二段	木棺直葬	玉	前期末
静岡市 牛玉堂山2号	方墳	20×12	○	×	(不明)	(不明)		前期か
島田市 城山	方墳	19×16	×	×	×	木棺直葬	刀剣、鉄族	前期末
磐田市 梵天13号	方墳	19	×	×	(不明)	(不明)		中期末
磐田市 明ヶ島5号	方墳	18	○	×	二段	木棺直葬	刀剣、鉄族、農工具	中期中葉(新)
静岡市 駿河丸山	方墳	18	×	×	なし	横穴式石室	須恵器、馬具、玉、耳環	後期後半
静岡市 アサオサン	方墳	18	×	×	なし	横穴式石室	大刀、馬具、玉、土器	終末期前半
磐田市 大手内15号	方墳	15	×	×	なし	木棺直葬	玉	前期末
磐田市 八幡神社南	方墳	14	○	×	二段	木棺直葬	刀剣、鉄族、農工具	中期中葉(新)
浜松市 北島1号	方墳	14	○	○	(不明)	(不明)		中期末



静岡県西部地域における古墳の変遷

まとめ 今回の発掘調査によって、狐塚古墳にかかわる数多くの情報が得られました。従来不明瞭であった浜名湖北岸の5世紀の有力古墳の様相が明らかになった事実は、地域史の視点からも大いに注目できます。奈良時代の都田川下流域には、刑部郷および伊福郷の地名が知られます。「刑部」の地名は、かつてこの地に大王家の宮殿「忍坂宮（おしさかのみや）」の経営基盤（名代、なしろ：王家の私有地）があったことを伝えています。「伊福」についても大王家に奉仕した豪族、伊福部連（いおきべのみらじ）の私有地（部曲、かきべ）との関連が想定でき、考古学的な調査成果の検討が課題としてあげられていました。

今回実施した狐塚古墳の調査成果から5世紀中葉にこの地がヤマト王権との結びつきを強めたことがうかがえました。文献や地名といった歴史情報と発掘調査の成果を総合し、都田川下流域の古代史をより豊かに描けるようになった点でも、今回の調査成果は重要な意味をもつものといえるでしょう。